

志免立坑櫓を保存し有効活用を推進する取組みについて



・志免立坑櫓を活かす住民の会・顧問
・九州伝承遺産ネットワーク・理事

古庄信一郎

・立坑櫓と粕屋中南部の遺跡を活かす議員の会・会長
・志免町議会議員(議長)

私が初めて「志免鉱業所」を訪れたのは、閉山(昭和39年)の一年前、高校の野球部の練習で鉱業所グラウンドを訪れた時です。バスを降り大正町商店街を、人を縫うように野球道具を担いで行ったのを記憶しています。「志免立坑櫓」と出会ったのは、町議会議員となった平成11年、所属した建設委員会の所管「赤坂ナガラ元線」の道路を、ただ直線に造成するため鉱業所の遺構である「扇風機坑口」を解体する工事の委員会視察でした。



(写真左…奥に立坑櫓が見えます)

それまで、鉄線で囲まれ、雑草が生い茂った立入禁止地のため、鉱業所の遺構は外部から見ることはでき

ませんでした。

扇風機坑口を見て私はその素晴らしさに感動し、そして解体される現実に無知で何もできなかった自分を腹立たしく思い、その時『目の前にある「立坑櫓」は、町のため、地域のため、将来の子供たちのため、そして働いてこられた多くの先人のために、これは絶対に守り抜く』そう強く決心いたしました。

これが、私の「志免立坑櫓」への関わりの第一歩です。

当時、行政も議会も町民も解体が大勢の中、保存への道のりは壮絶なものでした。

・全国の櫓調査・町民シンポ開催・櫓を活かす議員の会、櫓を活かす住民の会(以後・活かす会)結成・署名活動・議会での論争他…

初めて立坑櫓の写真を入れた手作りの名刺を作成したとき、町役場幹部に叱責されたのも今では楽しい思い出となりました。

これまでの活かす会の活動は「保存」の一点でしたが、これからは「活用」への取り組みであり、色々な夢、活かし方をどのように集積し、まとめ、推進して行くかが大変重要なポイントとなります。

故に、活かす会もその重責をしっかりと認識して活動しなければなりません。

◆「活かす会」現在の主な活動

櫓ライトアップ&キャンドル

クリスマス前後と年末年始に立坑櫓をライトアップ。住民の皆様から頂いた2500個のグラスを利用したキャンドルを設置。夜間ボタ山登山開催。元日は「初日の出」登山。

やぐらボタ山菜の花まつり

4月初旬、立坑櫓ボタ山麓に植えた菜の花を中心に、各イベント開催。出店も設置。(写真右)

ボタ山登山も同時開催。

ボタ山麓県道美化活動

福岡県さわやか道路美化促進団体の認定を受け、ボタ山麓道路750mを定期的に清掃管理。菜の花を植える。

志免鉱業所殉職者慰霊祭・他



当初の活動は、シンポジウムを主に展開しましたが、地域の宝を住民に理解頂き、地域の誇り、ランドマークと認知されるためには、多くの方が参加し、集えるイベント「祭り」を展開することと考え、最近はこれを主活動といたしました。これらは町おこしの原点であり継続して行かねばなりません。

◆有効活用を推進する取組みのポイント

有効活用の六つのポイントを挙げてみます。

1.教育…小学生が発した言葉「立坑櫓があるけん志免やろうもん」立坑櫓は子供たちにとって故郷の代名詞。地域の歴史を生きた教材で学んだからこそ育まれた郷土愛です。

地域の次世代を担う人材の育成には欠かせないことです。

2.観光…日本はビジットジャパン政策を打ち出し観光庁を設置、近代産業遺産を保存し

新たな地域おこし、観光コースとして確立しようとしています。世界最大最古の立坑櫓。アジアへ飛躍する福岡都市圏のランドマークにも成り得ます。

3.商工活性…福岡空港から10分の地に、これだけの遺跡遺構がある訳で、周辺には大型店舗や新規店舗が展開され、将来に向けても人の集積往来が非常にある地域でマーケットとしての魅力大。

4.国際交流…志免立坑櫓のモデルは中国撫順市の撫順炭鉱(旧満州鉄道炭鉱)龍鳳立坑櫓。「立坑櫓で日中友好と国際交流」志免町だけにできるテーマです。

5.環境…ボタ山はかつての化石燃料の廃棄物ですが、今や多数の植生物が生殖し緑の山となり紅葉までします。

このボタ山は環境を考えるテーマパークです。

6.生涯学習…団塊の世代の到来に合わせ、これらの遺跡遺構に関連する事業、語り部等を展開する。生甲斐づくりに活用。

◆「活用・取り組みの一例」

『福岡東カルチャーロードの創設』をシンポジウムや議会で提唱いたしました。

これは…大宰府・大野城の大宰府天満宮、四王子史跡他と宇美の宇美八幡宮と古墳群、これらを古代史ゾーン。

志免・須恵・粕屋に広がる櫓やボタ山、海軍炭鉱記念碑等、これらを近代産業遺産群のエコミュージアムとし近代史ゾーン。

粕屋・久山のルクル、トリアス等を現代ゾーン、と銘うってコンセプトは「遺跡を巡り古代の優雅さと近代の力強い日本史を感じながら、ショッピング、食事を楽しむ」…

『エムシャーパーク型公園』を全体基本とし、具体的な活用例を私なりに羅列してみると

- ・立坑櫓は最低限の補強を行い立ち入り可とし新たに出現した遺構(写真右)を含め公園化。
- ・櫓や遺構を「エネルギー資料館」「国鉄・海軍図書館」「国の近代・現代美術館」等々として活用、又は新設。
- ・夜間ライトアップ(室蘭他の事例を参考)。
- ・櫓周辺に、土日にミニ機関車が大勢の子供たちを乗せて走るファミリーゾーンやエネルギー体験ゾーンを設置。
- ・ボタ山は原則、現状保存で埴生公園とし、ジョギングコース、ジャングルジム、農園、

- パークゴルフ、野外音楽堂、道の駅、等々を。
- ・ルクルからボタ山、立坑櫓周辺公園、シーメイト、大正町商店街と須恵五坑通り(鉱業所時代の街並みと店を再現、黒ダイヤ通り)、銀座通、鉄道公園を周遊する回遊ルートを確認。
- ・中国撫順市との交流ゾーンを開設。撫順市と姉妹都市を締結し、人と商工の交流を。
- ・エコミュージアム遺跡巡りツアー(櫓や海軍炭鉱創業記念碑他、地域の遺跡を巡る)
- ・全国の石炭関連団体(軍艦島・大牟田荒尾・飯塚・田川・北海道・常磐他)をネットワーク化し、観光周遊他、共通の事業を展開。

『活用は住民主体の組織で継続的に』

色々な活用方法があり、それには費用他、課題も多くあるが、大事なものは、志免炭業所は志免町・須恵町他広域に展開された炭業所のため、老若男女、広域的な住民と団体が主体となって活用方法を考え実践、これを行政がサポートする体制を確立することです。そして継続的に展開することです。広域的組織の「活かす会」は、そのリーダーとなって牽引することへの期待は大です。



「結び」

有効活用を考える時、当然、社会情勢や、時代背景が大きく影響する訳で、故に多くの住民や団体が、時代に合った活用方法を考え熱く議論することが活気ある「地域づくり」となります。しかしその基本となる心構えは、「地元学」の理念と、立坑櫓や遺構への誇りと活用への情熱です。

35年後に訪れるであろう「志免立坑櫓建立100年」の時、我々の活動が感謝されることを信じ、私はこれからも「のぼせもん」を買いたいと思います。

…「遺産は知産・古き知産を磨いて

地域を開く」…(多摩大学・望月教授談)